

特250

2/6



昭和の御光



始

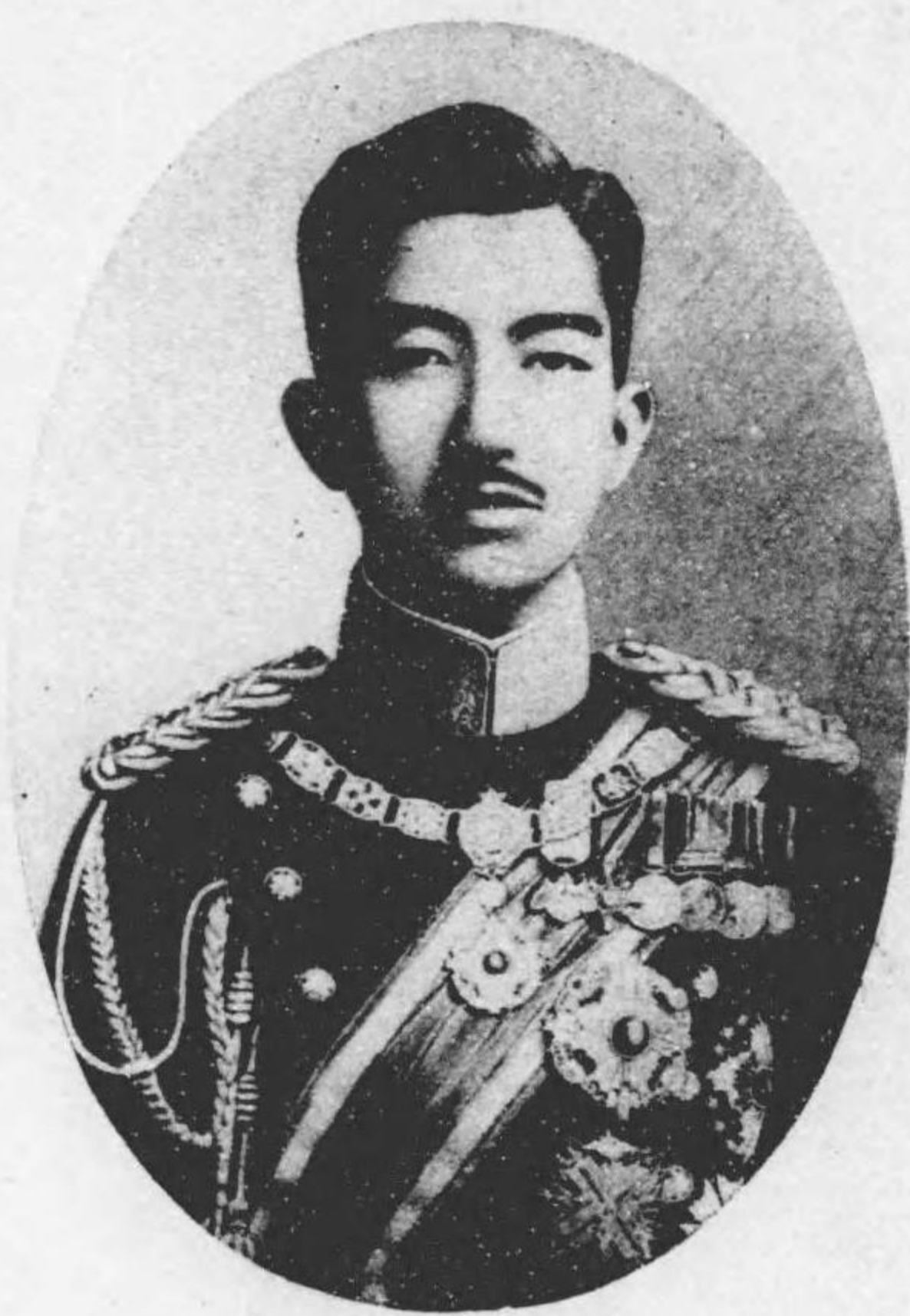




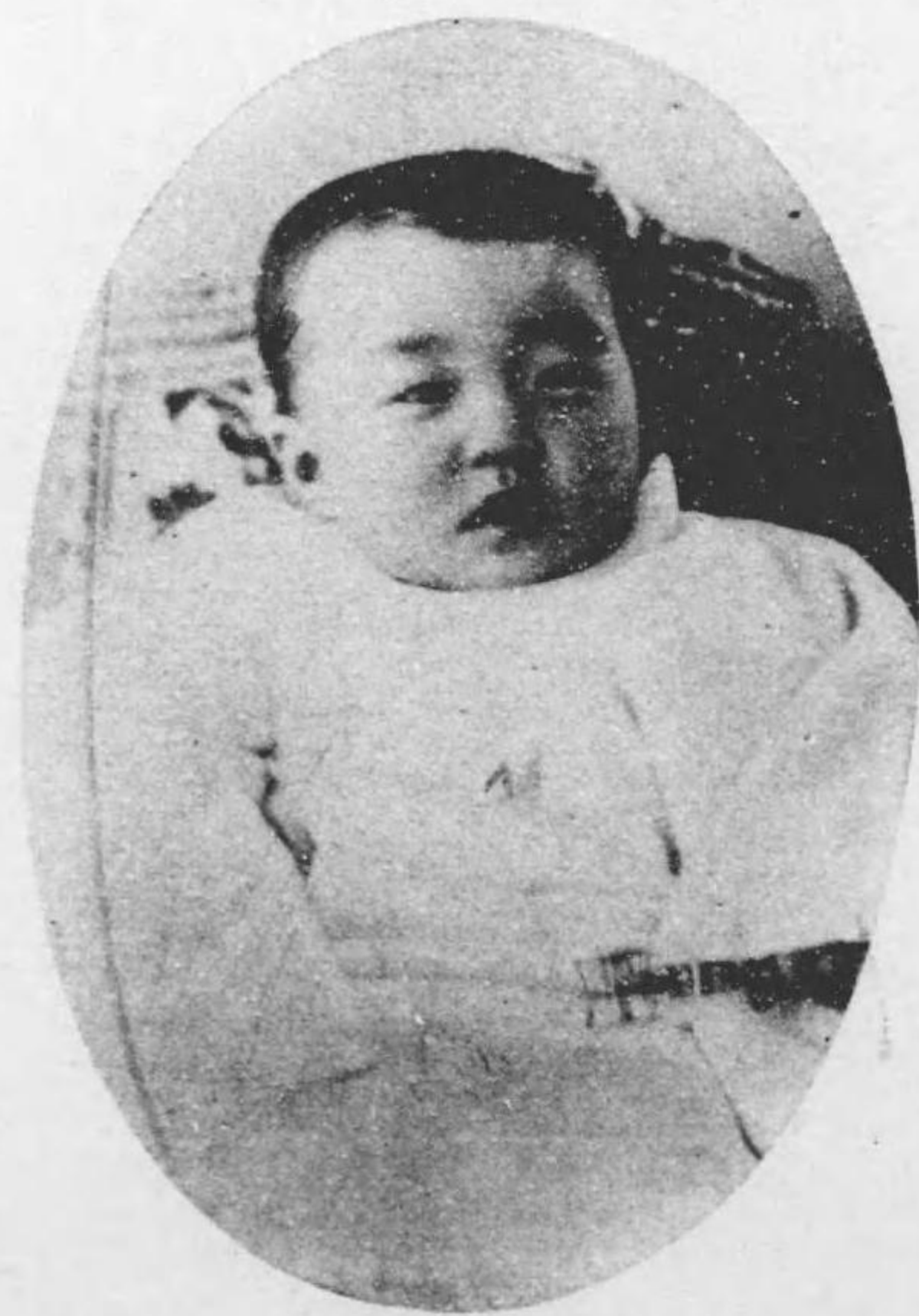
下 陛 后 皇



下 陛 皇 天



下 殿 宮 照





下 陛 后 太 皇



下 殿 宫 松 高



下 殿 宫 父 秩



下 殿 宫 澄





特250  
216



昭和の御光





朝見ノ儀ニ於テ賜ハリタル勅語

朕皇祖皇宗ノ威靈ニ頼リ萬世一系ノ皇位ヲ繼承シ帝國統  
治ノ大權ヲ總攬シ以テ踐祚ノ式ヲ行ヘリ舊章ニ率由シ先  
徳ヲ聿修シ祖宗ノ遺緒ヲ墜ス無カラシコトヲ庶幾フ  
惟フニ皇祖考叡聖文武ノ資ヲ以テ天業ヲ恢弘シ内文教ヲ  
敷キ外武功ヲ耀カシ千載不磨ノ憲章ヲ頒チ萬邦無比ノ國  
體ヲ鞏クセリ皇考夙ニ心ヲ養正ニ宅キ廼チ志ヲ繼明ニ尙



クス不幸中道ニシテ聖體ノ不豫ナル朕儲貳ヲ以テ大政ヲ  
攝ス遽ニ登遐ニ遭ヒテ哀痛極リ罔シ但皇位ハ一日モ之ヲ  
曠クスヘカラス萬機ハ一日モ之ヲ廢スヘカラス哀ヲ銜ミ  
痛ヲ懷キ以テ大統ヲ嗣ケリ朕ノ寡薄ナル唯兢業トシテ負  
荷ノ重キニ任ヘサラシコトヲ之レ懼ル  
輓近世態漸ク以テ推移シ思想ハ動モスレハ趣舍相異ナル  
アリ經濟ハ時ニ利害同シカラサルアリ此レ宜ク眼ヲ國家  
ノ大局ニ著ケ舉國一體共存共榮ヲ之レ圖リ國本ニ不拔ニ

培ヒ民族ヲ無疆ニ蕃クシ以テ維新ノ宏謨ヲ顯揚センコト  
ヲ懋ムヘシ

今ヤ世局ハ正ニ會通ノ運ニ際シ人文ハ恰モ更張ノ期ニ膺  
ル則チ我國ノ國是ハ日ニ進ムニ在リ日ニ新ニスルニ在リ  
而シテ博ク中外ノ史ニ徵シ審ニ得失ノ迹ニ鑒ミ進ムヤ其  
ノ序ニ循ヒ新ニスルヤ其ノ中ヲ執ル是レ深ク心ヲ用フヘ  
キ所ナリ  
夫レ淨華ヲ斥ケ質實ヲ尙ヒ模擬ヲ戒メ創造ヲ勗メ日進以



テ會通ノ運ニ乗シ日新以テ更張ノ期ヲ啓キ人心惟レ同シ  
ク民風惟レ和シ汎ク一視同仁ノ化ヲ宣ヘ永ク四海同胞ノ  
誼ヲ敦クセンコト是レ朕力軫念最モ切ナル所ニシテ丕顯  
ナル皇祖考ノ遺訓ヲ明徴ニシ丕承ナル皇考ノ遺志ヲ繼述  
スル所以ノモノ實ニ此ニ存ス有司其レ克ク朕カ意ヲ體シ  
皇祖考暨ヒ皇考ノ效セシ所ヲ以テ朕カ躬ニ匡弼シ朕カ事  
ヲ獎順シ億兆臣民ト俱ニ天壤無窮ノ寶祚ヲ扶翼セヨ

はしがき

輝く明治大正の御代を承け継ぎませる昭和の御代の御  
光その新しき御光のはしくを仰ぎまつり謹み記せる  
この小冊子。

やがて新しき御代の民草と生ひ立つべき小國民たちに  
日出づる國の新しき大和心をはぐまさせるもとにもと  
世に公にする。

昭和二年三月

編者しるす



目次

天皇陛下の御事ども……………一

皇后陛下の御事ども……………一八

照宮殿下の御事ども……………

皇太后陛下の御事ども……………三

秩父宮殿下の御事ども……………四

高松宮殿下の御事ども……………五〇

澄宮殿下の御事ども……………五三

昭和の御光

昭和皇道會謹輯

天皇陛下の御事ども

御誕生と御成長

昭和の御代の御光と仰ぐ吾等の 聖上陛下は、明治三十四年四月二十九日、明治天皇の第一皇孫、大正天皇の第一皇子として、東京青山御所内で、いとやすらかに御誕生あそばされた。御祖父君明治天皇、御父君大正天皇のお喜びは申しあげるまでもなく、全國民の喜びもまた非常なものであつた。御誕生後、なんのおさはりもなくお日だちになり、五月五日の端午の節句に御命名式が行はれて、迪宮裕仁と申された。

伯爵川村純義氏が最初の御養育係を仰せつかり、伯爵は麻布にある自



分の邸内に 陛下をお迎へ申しあげ心をかたむけて御養育申しあげた。



時幼御の下殿宮父秩と下陸皇天

三十九年の末から幼稚園の課程について御教育申しあげた。

陛下は翌年御誕生あそばされた御弟の  
淳宮殿下(後に秩父)と御一しよに、こゝでい  
とすごやかに御成長あそばされた。  
それより四年後の明治三十七年の秋川  
村伯が薨去されたので、陛下は淳宮殿下  
と御一しよに青山御所内の皇孫御殿に入  
らせられた。そのころから侯爵木戸孝正  
氏が御養育申しあげたが、翌三十八年の秋  
からは東宮侍従丸尾錦作氏が御養育掛長  
を仰せつけられて、御養育の事に奉仕し、翌

御修學

明治四十一年には 陛下御年八歳にならせられ、四月に學習院初等科  
尋常小學に御入學あそばされた。その時の學習院長は乃木大將であつ  
たが、大將はその大任をはたすために心血をそゝいで 陛下を御教養申



下陸皇天の時當學入御院習學

机御腰掛なごもごく質素なもので、普通の小學校の物とあまり變りはな  
かつたと申すことである。

學習院初等科御在學中は、この學科にもすぐれさせられたが、なかにも



博物に御熱心で、魚介昆虫の御採取から整理分類までお手づからあそばされた。歴史もなか／＼御熱心で、國史中の人物中、清麿、義経、秀吉、清正などは、とりわけお氣に召した人物であつたこと申すことである。

大正三年三月には、學習院初等科を御卒業になり、四月よりは高輪御所内に東宮御學問所が設けられ、そこに高等普通學、軍事學、體育ならびに帝王としての御學問をお修めあそばさることとなつた。御學問所の總裁には東郷大將が任ぜられ、男爵濱尾新海軍中將子爵小笠原長生、文學博士白鳥庫吉、杉浦重剛の諸氏が所員に選ばれて、御教養申しあげることとなつた。それより七年間の長きに亘つて御研學を積ませられ、大正十年二月に無事文武兩道に亘つて高等普通の御學問を御修了あそばされた。御學問所の御課程御修了後も、陛下は御修養御研學をゆるかせにあらばされず、それ／＼御進講の時間をお定めになり、社會百般の事柄に亘

り、その道の學者實務家をお召しになつてその進講をお聴き取りなされた上、御不審の晴れるまで種々御下問になり、御研究をお積みあそばされた。

陛下にはまた體育運動を大事におぼしめされ、毎日時を定めて乗馬、テニス、ゴルフなどの御運動をあそばされたが、中にも乗馬は殊の外の御上達、ゴルフもなか／＼お上手にあそばされ、水泳なども非常に御巧者でいらせられること申すことである。

### 立太子禮と御成年式

大正五年、陛下御年十五歳にならせられ、その年の十一月三日朝廷におかせられて立太子の禮を行はせられた。

この日、皇太子殿下には、陸軍歩兵大尉の御正装にて高輪なる東宮御所より參内、まづ綾綺殿にて黄丹色關腋袍に召し替えさせられ、黑色の空頂



黒幟をお着けあそばされた。やがて賢所大前の儀は擧げられ、大正天皇御手づから代々皇太子に授けらるゝ壺切の御剣を陛下にお授けあそばされた。次に皇太子殿下三殿御親閲の儀があり、午後にはまた陸軍正装に改められた皇太子殿下参内朝見の儀が行はれ、かくして立太子禮の盛儀はめでたく終らせられた。

この日全國民は心から歡喜して祝ひまつり全國の學校生徒は次の唱歌を歌つて祝ひ奉つた。

めでたき代々のためしこて

壺切のたち傳へます

今日は生日の足日なり

いざや祝はんもろともに

光さし添ふ大御代の

日嗣の御子のみさかえは

千秋五百年かぎりなし

いざや祝はんもろともに

大正八年 陛下滿十八歳にならせられたので、五月七日朝廷におかせられて陛下の御成年式を擧げさせられた。天皇をはじめまつり皇太子皇太孫は、滿十八歳をもつて成年とするこゝは皇室典範のお定めである。

この日午前賢所大前にて壯嚴な加冠の御儀が行はれ、引續いて皇靈殿神殿に御親謁の御儀あり、午後朝見の御儀があつて拜賀を受けさせられた。

この日重なる御慶事に、國民の歡喜はひとかたならず、全國民それ〴〵奉祝の催をし、各學校では奉祝の式を擧げてお祝ひ申しあげた。



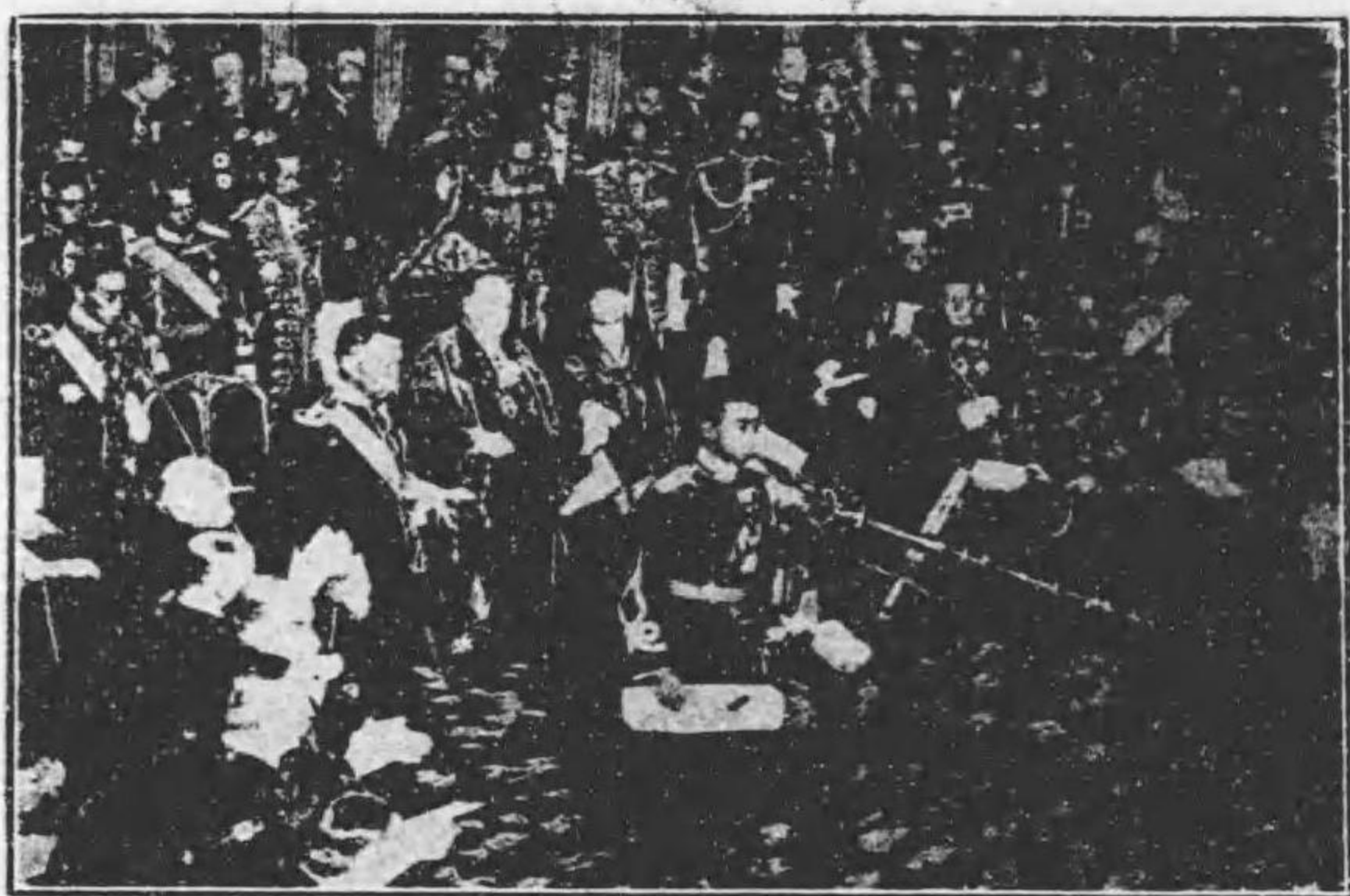
海外御巡遊

すでに御成年に達せられた陛下には、いやます向上修養の御一念より、大正十年二月古へよりまだ例のない海外御巡遊の事を御決行あそばさるることとなつた。

春の光うらゝかに霞たなびく三月三日。陛下には随伴閑院宮載仁親王殿下、伯爵珍田捨己氏外十六名の随員を随へさせられ、東京驛御發車、濱御着、御召艦香取に乗御、供奉艦鹿島を従へさせられ、はるけき歐洲さして萬里の航路に上らせられた。

六十五日間の御航程、一路御平安、五月七日無事英國ポーツマス港に御着、御出迎の英國皇太子と御同列にて汽車に乗御、倫敦へ向はせられ、ヴィクトリア驛にて英國皇帝皇后兩陛下の御出迎を受けさせられ、英皇室の御賓客として、英國皇帝陛下と御同乗、公式鹵簿にてバッキンガム宮殿に

入らせられた。



倫敦市の歓迎會における御演説

それより公私の歓迎會にお臨みになり、各地御巡覽御見學あそばされたが、中にも倫敦市の歓迎會にお臨みになり、わづか二十歳にならせられたばかりの御年若の御身をもつて一千名以上の朝野の名士の前にお立ちになり、堂々と御挨拶の御演説をあそばされて、並み居る外人を感嘆させなれた。一事は、今なほ國民が感激して心強く思ふところである。

五月末、佛國にお渡りになり、それより白耳義和蘭、伊太利各國御巡遊、各國君主大統領御訪問、各地御巡覽御見學を



遂げさせられ、五月十八日伊太利ナポリ御出港御歸朝の途に着かせられた。かくて往復總航程二萬三千三百四十七哩の御船旅を無事平安に終へさせられ、九月三日横濱御着満六箇月目に無事帝都に御歸還あそばされた。

陛下の御外遊は、陛下英明の御資性をいかに光輝あるものたらしめ、たかは申しあげるも畏れ多いことであるが、わけてもこの御巡遊中全世界の檜舞臺たる歐洲の社交界に立たせられ、きはめておうちこけなされた御社交ぶりをお發しなされ、國と國との交りの上に非常なよい結果をもたらししたことは、まことに慶ばしいことと申さねばならぬ。

攝政御就任

陛下海外御巡遊に御出發あそばされてから、間もなく、父君先帝陛下御健康とかくすぐさせたまはず、御不例久しく、御快癒の御模様も見えさせ

給はず、内外の政務を御親裁あらせられる事かなはせられぬため、大正十年十一月二十五日詔をお發しなされて、陛下を攝政に任じなされた。

陛下は先帝陛下の詔を奉じ、やむなく攝政の重任に就かせられ、天皇に代つて内外の政務を御親裁あそばさる事となり、それより毎日宮中御座所におでましになつて御執務法律の御裁可をはじめ官吏の任免まで、すべて御親裁あそばされた。

それより陛下が父君先帝陛下の御代理として心を國事に勞しなされた事は一方ならぬことであるが、わけても大正十二年關東震災の際には、臨時に起る種々の政務に、寸時のお違もあらせられぬ間にも、災害をかうむつた人民の困苦を御心痛あそばされ、罹災民救恤費として御内帑金一千萬圓を御下賜になつた上、親しく東京横濱の罹災實況を御視察あそばされ、各大臣を勵まして罹災民の救済に、災害地の復興に、日夜心を悩ま





攝政御時代陸軍始觀兵式御親閱の天皇陛下

させられた。

攝政に御就任なされてから、國治まり、民安まるやうにと、いかに御心を勞せられたかは、陛下が攝政御就任後お詠みなされた次の御歌を拜誦してもその一端をお察し申あげることが出来て、國民一同が聖德太子、中大兄皇子に次ぐ名攝政と仰ぎ尊びまつたのもありがたき極みであつた。

旭光照波

世の中もかくあらまほしおだやかに

朝日にはへるおほうみのほら

新年言志

あらたまの年を迎へていやますは

民をあはれむ心なりけり

御成婚の御盛儀

罹災民の困苦を痛ませらるゝありがたき御心から御延期あそばされた陛下と久邇宮良子女王殿下との御成婚の御盛儀はいよく大正十三年一月二十六日の午前宮中賢所大前において擧げさせられた。

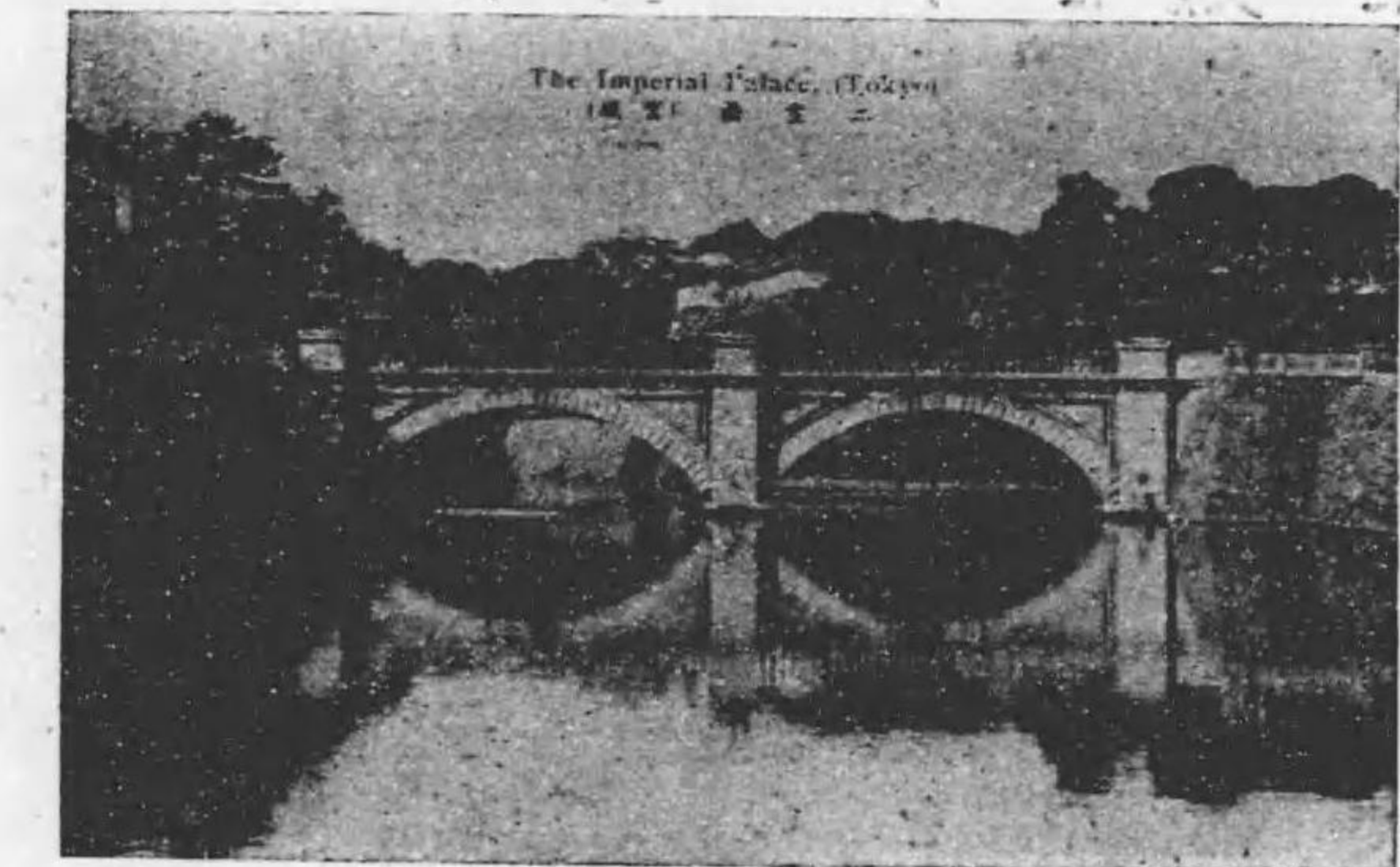
この日午前十時垂纓の御冠に、黄丹袍の御儀服を召された氣高き陛下には、十二單の御装束を召されたうるはしき良子女王殿下と賢所内陣に御着座あそばされ、うやくしく御禮拜の後、陛下御自御成婚の御告文を奏せられ、終つて外陣にて御神盃の御儀あり、皇禮砲の鳴り響くうちにめでたく御式を終へさせられた。

この御成婚の御盛儀を擧げさせられるについて、全國民の歡喜はまこ



とに非常なもので、東京はもとより全国各地津々浦々にいたるまで奉祝

の誠をいたし、それぞれ催事をしてお祝ひ申しあげた。

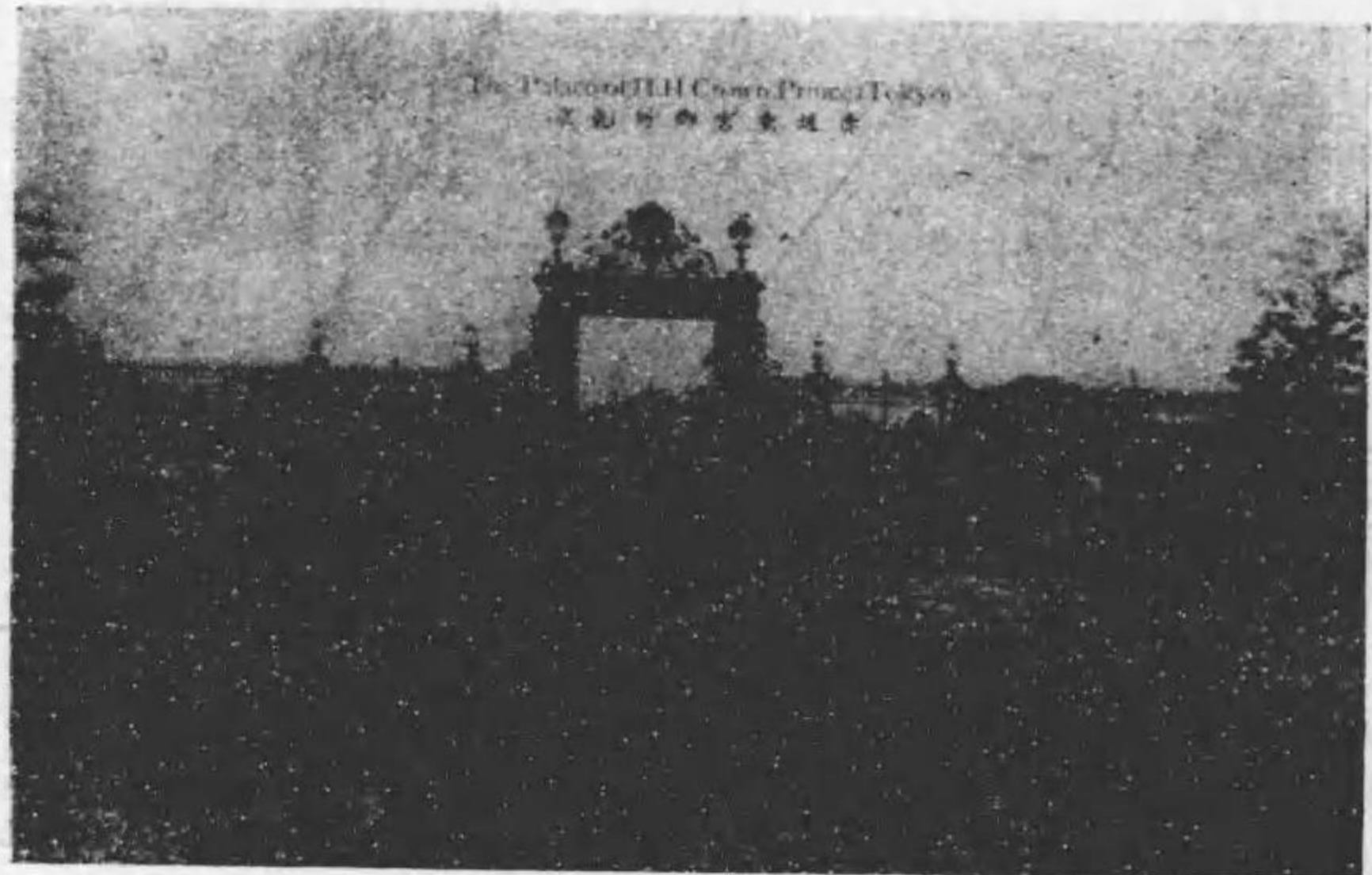


宮城二重橋

式後、陛下には陸軍中佐の御盛装、良子女王殿下には水色のローブ・デ・ユルデに召替へられ、御同列で東宮假御所へ御還啓、廿日には沼津に行啓、御父母兩陛下に御對顔、朝見の御儀を行はせられ、廿二日には伊勢大廟並に畝傍、桃山兩御陵に御參拜、御成婚の御奉告をあそばされて、めでたく一切の御儀式を終へさせられた。

踐  
祚

御成婚の御盛儀もめでたく終へさせられ、翌大正十四年十二月六日に



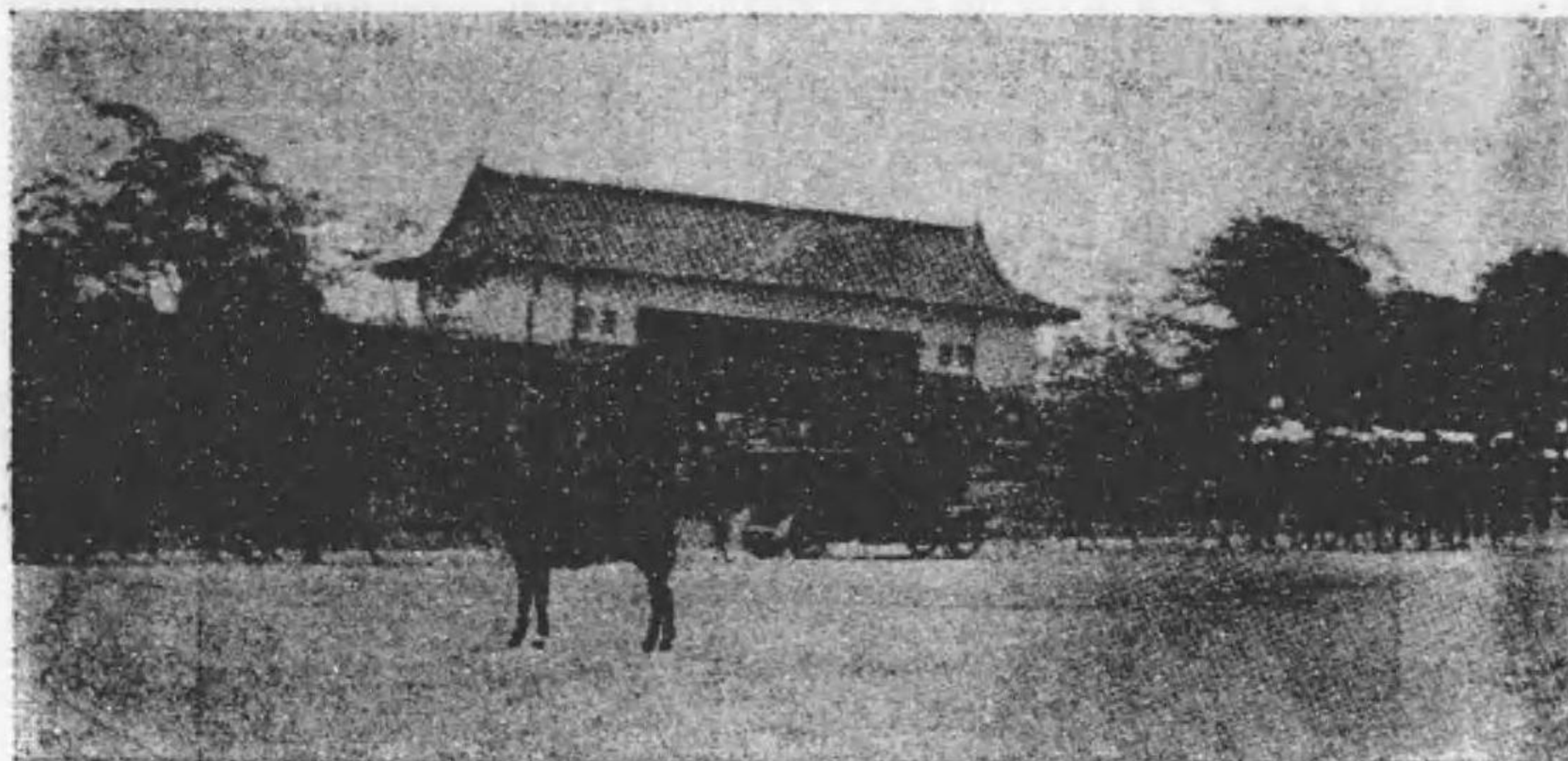
赤坂離宮

は第一皇女照宮成子内親王御誕生あそばされ、國を擧げて吾が皇室のいや榮えますを喜びあつた事であつたが、翌大正十五年秋ごろより先帝陛下の御惱重らせられ、皇太后陛下、天皇陛下、皇后陛下のなみなみならぬ御看護御心づくし、萬民が誠心をこめた御平癒の祈願もそのかひなく、十二月廿五日つひに崩御ましまし、天つ御空に神さりました。

うご御察し申しあげるさへ胸も裂ける思ひであるのに、陛下はその哀

踐  
祚





薄幽日當儀御の見朝下陸皇天上今

みをおさへあそばされ、「皇位ハ一日モ曠クスヘカラス」を、しくも直ちに踐祚あそばされ、元號も昭和と改めさせられ、月の二十八日には、宮中に文武百官をお召しなされて朝見式を擧げさせられ、天皇として一國を治めなさるについて、いさもありがたき勅語を下し賜はつた。

昭和の御代も今ははや二年となり、先帝陛下の大喪儀も無事に終へさせられ、陛下は元の東宮御所をそのまゝ御所にあてさせられ、玉體ますます御健かに、内外政務をみそなはせられていらせられる、仰ぐも

畏く尊き昭和の御光

君が代は

千代に八千代に

さざれ石の

いはほとなりて

こけのむすまで



### 皇后陛下の御事ども

#### 御誕生と御幼時

皇后陛下は、久邇宮邦彦王殿下の第一王女におはし、明治三十六年三月六日東京麻布區鳥居坂町の久邇宮邸にめでたく御誕生あそばされた。かゞやく玉のやうにお生れあそばした。陛下は、母宮倪子殿下のお乳を召しあがられて、おんすごやかにすくくとお育ちになり、いつもにこやかにほゝゑまれて、御邸内をにぎはしていらせられた。

陛下は御慈愛深き御母君の御養育によつて、年一年おんすごやかに御成長あそばされ、明治四十一年御年六歳にならせられた時、赤坂見附上にあつた學習院女學部の幼稚園におはいりなされたが、殊の外御通學をお好みなされ、それより一年間一日もお休みあそばされずお通ひあそばさ

れた。



(中央) 幼時御の下 皇后陛下

#### 御修學

翌年の明治四十二年には御年七歳で學齡になられたので、四月十一日に小學校の第一學年に入學あそばされた。陛下はここのほか學校がお好きで、老女のお供で毎日元氣よくお通ひあそばされた。陛下はお體はすこしおちひさかつたが、すなほでいらせられ、よく先生の申しあげることをお守りなされるので、學科もよくお出来になつた。翌年宮邸を麴町區一番町に移されたが、陛下



下は引續きそこからお通ひあそばされた。小學校にいらせられる間、陛下はごの姫たちも仲よくあそばされたので、級中だれかれの區別なく、一樣に陛下にお親み申しあげてゐた。陛下は何をなさるにも、級友とごいつしよにあそばされ、御運動などもよくあそばされたので、ずんずん御發育なされて、御體格もすぐれさせ、ピンポン、テニスなどすぐれた御腕前をお見せになつた。

大正四年御年十三歳で、學習院初等科を優等の御成績で御卒業、中等科一年（高等女學校）にお進みあそばされた。御學習にはなかく御熱心で、中等科御在學中、學校の宿題や教師のお授け申した仕事をたゞの一度でもお缺かしなされた事はなかつた。御日誌なども一日ももれなく、こまごまごいかにもちちんとした文字でお記しになつた。お少さい時から「自分の事は自分で」といふことを堅く守られて、御書齋の御整頓は申すま

でもなく、お袴お靴下まで御自身でおたゝみなされた。

東宮妃册立 御學問所

大正七年、陛下十六歳の春をお迎へあそばされた一月、天皇陛下のまだ東宮でいらせられた時の妃殿下と御内定になつたので、學習院中等科を三年級で御退學あそばされ、その年の四月から新に久邇宮御邸に設けられた御學問所で、皇太子妃としての高等普通學科について御修學あそばされる事となつた。

御學問所にては、後閑菊野女史御教育主任を仰せつかり、各學科は専門の學者がそれ／＼分擔して御教授申しあげた。陛下は特に選ばれた二人の御學友とごいつしよに、毎日この御學問所にお出ましになつて、各教師の講義をきこし召され、熱心に御修學をお續けあそばされた。なほ定められた學科の外に、時々名ある學者や實務家をお召しになり、それぞれ



専門の事項についての講述をお聴き取りあそばされ、ひたすら御修養に御心を注がせられた。

なほ御修學のかたはら、ピアノの御練習もなされれば時には澄みわたるお聲高く獨唱なごもあそばさる。書もお好きで毎日のやうにお習字をあそばされ、繪は細い線の大和繪を美事にお書きあそばされ、御運動としてはテニスの外、長刀なごも上手におつかひあそばされた。歌は殊の外御堪能でいらせられるが、このごろお詠みなされた次の歌を誦しまつると、そのおんやさしい御心までもうかゞはれてありがたきことである。

若菜

枯草のひまにおひたる初若菜

つみてさゝげん神の御前に

まこと

いかばかり身はひくくとも眞心を

たもたんひごぞたふごかるべき

### 御成婚前の陛下

大正十一年 陛下二十の春をお迎へあそばされた。この年、御學問所の御課程も御修了あそばされたので、それより御父母君御妹君方ごごいつしよに各地御巡遊御見學あそばされ、ひたすら御健康と御修養にお力めあそばされた。六月にはいよく皇太子妃册立の御勅許あり、九月にはまた御納采（申す御結納）の儀も滞りなくすまさせられ、御成婚のお日取もほゞ大正十二年十一月と御内定になつた。東宮職をはじめ久邇宮家でも、それ／＼用意を進められてをられたをりから、突然九月一日の大震災があつたので、かしくも東宮殿下のお思召により、御成婚の御儀は一時期延期せらるゝこととなつた。



その時、陛下には、父宮母宮御妹の信子女王殿下



(に共と宮妹宮母)下陛下皇の前婚成御

た避難者に賜はつた。  
そのうち東京の危険も薄らぎ、混雑もいゝらか鎖まつたので、陛下に

の赤倉温泉に御滞在  
在中でいらせられ  
たが、御滞在中御妹  
君や侍女をお相手  
に男物女物子供も  
の各五枚づゝの着  
物をお縫ひになり、  
東京で難にあつて、  
同縣下へ逃れ歸つ

は九月二十三日に御歸京あそばされたが、御歸京後は赤十字病院をはじめ  
めその他の病院にいらせられて、親しく在院の傷病者をお見舞あそばさ  
れ、なほ着物の御裁縫も續けさせられ、毎日夜のふけるまで針を運ばせら  
れ、母宮御妹宮ごともくかずくの着物をお仕立てなされて、宮家お出  
入のものをはじめ、縁故ある人々中の罹災者に賜はつた。

震災の十二年はあはたゞしいうちに暮れて、明くれば大正十三年、陛  
下二十一の春をお迎へあそばされた一月二十六日上下ごもく待ちに  
待つた御成婚の御盛儀は、擧げられ、上下一様に喜び合ひ祝ひまつるうち  
に、めでたく皇太子妃ごならせられた。

御成婚後の陛下

東宮妃として御入輿になつてからの赤坂御所の御暮しは、畏れ多い申  
しやうではあるが、家庭の主婦として、また將來の國母として申し分なき



御修行を積みませられた。まづ朝は六時脊の君より常に半時間早く御起  
床あそばされ夜は脊の宮より半時間おぐれて十時半に就寝あそばされ、  
脊の宮のお身のまはりの御事は、何一つ女官達の手を煩さずすべてお自  
身にお始末あそばされた。

脊の宮が御政務の間、または御學問の間に入らせられし時は、その間に  
陛下も佛語、國漢文、音楽、繪畫などを御學習あそばされ、午後は脊の宮のお  
相手をしてゴルフやテニスなどをあそばされることもあつた。食事は  
大抵ごいつしよにあそばされたが、脊の宮のお好みをよくおさとりにな  
つて御自身に召上り物の御料理を御指圖あそばされた。

脊の宮が、春の地方行啓、秋の大演習御統監のため御旅行にお出まし  
の時などは、なにくれごなく脊の宮のお身の上をお心づかひあそばされ、御  
出發の時などは、お帽子から御外套まで御自身にお持ちになつて御殿の

内立關までお見送りあそばされた。先年脊の君が遠く北陸の野に特別  
大演習の御統監あそばされた時などは、陛下御自身に御丹精になつた  
甘諸をわざわざ侍従をして持参させ、御自筆のお文さへまゐらせられた。

大正十四年十二月六日、照宮成子内親王殿下お生れあそばしてからは、  
御母君として何くれごなく事ごまかにお心づかひあそばされ、お乳をさ  
しあげることは申すに及ばず、御養育一切の事に深くも御注意あそばさ  
れ、毎日缺かさず御養育日誌さへもお認めあそばされたご申すことで、照  
宮殿下の無事おすごやかに御成長あそばされたのも、ひとへに陛下が  
御母性としておやさしい御心づかひによる事ご察しあぐるさへ尊い次  
第である。

陛下はまた御孝心深くましまし、先帝陛下皇太后陛下に對しまつて  
何くれごその御誠心をおつくしあそばされたが、先帝の御惱重らせられ



た時は脊の君とお揃でいくごも葉山へおでましになり、先帝陛下の御病床をお見舞申しあげられ、別して十二月十六日より葉山御用邸に御滞在。あそばされて脊の君ごにも親しく御看護あそばされた。

先帝崩御脊の君踐祚ましましてからは、皇后陛下として、また國母陛下として、萬民の仰ぐところならせたまへるは、いごも畏ききはみである。

### 照宮成子内親王殿下の御事ども

照宮成子内親王殿下は、今上陛下第一の皇女にましまして、大正十四年十二月六日午後八時十分、赤坂なる東宮假御所に御産聲もいと高らかに玉のやうにお生れあそばされた。はじめて皇孫をおもうけになつた御祖父君にまします先帝陛下、御祖母君にまします皇太后陛下、はじめて御

父君となり御母君とならせられた。天皇皇后兩陛下の御悦びは申しあげるまでもなく、この御吉報の傳はるごにも、全國民は吾が家の事のやうに喜び合ひ祝ひ合うたことであつた。

生れながらの御發育はいごお美事で、御體量八百七十三匁、御身長一尺六寸八分五厘と拜せられ、御母宮にも無事御順當にお日立ちあそばされた。七日には賜劍の御儀があつて、先帝陛下より御劍と御袴を賜はり、十日には御命名式があつて、照宮成子と御命名あつた。

それからの照宮殿下は、母宮殿下の御授乳と、かねてから御所内に移り住んで交替に參殿する二人の御乳人のお乳添にすく／＼とお育ちになり、あくる大正十五年の新春には母宮のお床上もあり、御二歳になられた照宮殿下も、晴れのお召しのお着初めをあそばされた。

二月もすぎて三月三日、初のお節句ごろにはまる／＼とおふさりあそ



ばされ、その月の二十九日には、母宮御同道で初めて宮城へ御参内先帝陛下皇太后陛下に御對顔あそばされた。四月五日には御箸初の御式があったが、そのころの殿下はそろ／＼お智慧づかせられ、時々ほゝるませられるお可愛らしさに皇孫御殿の春はこの上もない平和な光にみちた。

八月には御兩親の宮と那須御用邸に御避暑あそばされ、ますます／＼おんすごやかにお育ちになり、十二月に入つて第一回の御誕辰を迎へさせられ、あくれば昭和二年こゝにめでたくお三つの春をお迎へあそばされた。

### 皇太后陛下の御事ども

#### 御幼時

皇太后陛下御名は節子と申され、故従一位公爵九條道孝公の第四女として、明治十七年六月二十七日、そのころ神田錦町にあつた九條家邸内に御生誕あそばされ、東京府下豊多摩郡高圓寺村の大河原金藏といふ農家のもこで、金藏の妻女ていといふ乳母の手でおんすごやかにお育ちあそばされた。

明治二十一年御七歳のをり、九條家へお歸りあそばされ、翌年の春華族女學校の小學部に御入學あそばされた。陛下は御幼時から侍女たちや下男をいたはりなされ、御自身にはあれがほしい、これがほしいなど言ひ出された事もなく、萬事に御心づきなさる御惻發のほどは、大人も及ば



ぬほごであらせられると申すことで、御伯母君にあたらせられた英照皇太后も、いたく陛下を御寵愛あそばされ、何くれもなくねんごろに御教訓を賜はつたと申すことである。

御學問

華族女學校小學部に御入學あそばされた陛下は、雨風の日の外は車をお用ひになつたことがなく、大抵は御徒歩でお通ひになり、三年の後高等小學に御進級御年十三の時中學校に進ませられ、そこにて三年の御學業を終らせられた。御在學中は御服裝などもいたつて御質素で、専心學業にお勵みなされたが、前後十年間の御通學中御缺席あそばされたのは、御伯母君英照皇太后崩御の喪に服された時ばかりであつたと申すことである。従つてその學科もよくお出來になり、成績はいつも優等でいらせられたと申すことである。

中學校御卒業の後、更に高等中學校にお進みなさる御豫定でいらせられたが、東宮妃册立の事が御決定になつたので、明治三十二年華族女學校を御退學あそばされ、それよりは御邸内にて國文を本居豐穎氏、漢文を三島毅氏に、佛蘭西語を三田守眞氏に、音楽を幸田延子女史について御研究あそばされた。

陛下の御生家九條家は、歌と書にすぐれた方の多いお家柄なので、陛下も自然に歌や書にすぐせられたが、中にも御歌は氣高く奥床しく拜されるものが多い。こゝに謹んでその二つ三つを掲げまつれば、

社頭の暁

つたへきく天のいはやもしのばれて

あかつききよしいせの神がき

旭光照波



青海原なみをさまりて昇る日に

むつみあふ世のさまを見るかな

曉の山雲

あかつきのきよきころに仰ぐかな

あさくま山のみねの白雪

御仁慈

皇太后陛下の御慈み深くまします事は筆や紙ではとてもつくせぬことであるから、今はたゞその中の三つ四つの事を記しまつて、御徳の一端を仰ぐことにする。

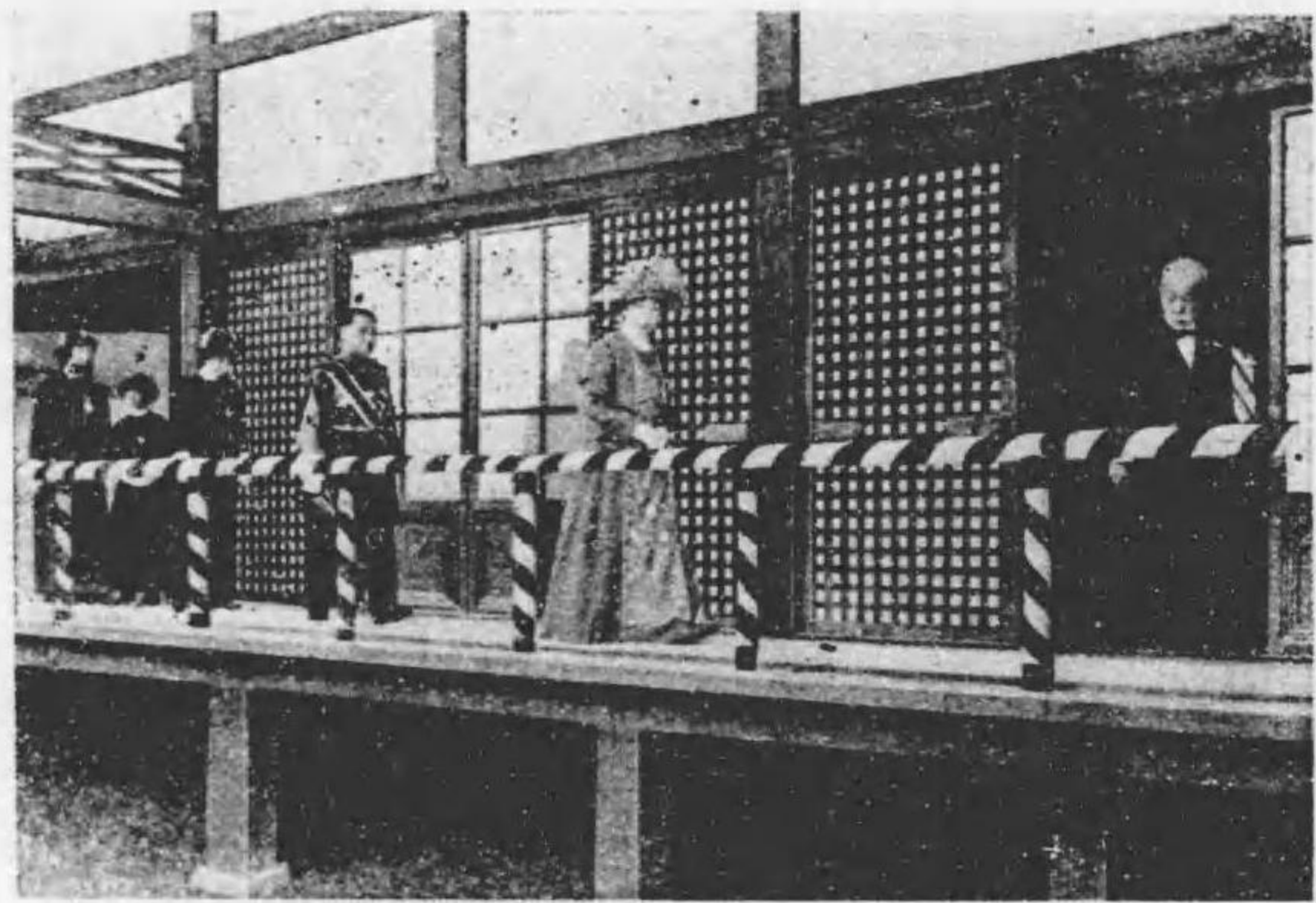
大正十二年五月四日のこと、葉山御用邸から自働車に召されて浦賀町の走水神社に御参拜なされたことがあつたが、御参拜後、観音崎燈臺にお立寄あそばされ、世間と遠く離れて航海者のため重大な任務に就いてを

る燈臺守の生活の有様を親しく御覽あそばされた。その際、五つになる土屋監守長の長女花江が、たゞ一人さびしく遊んでゐるのを御覽になると、かしこくもつか／＼とお側に近寄せられ、御手づからお菓子をお賜はつたこと申すことであるが、陛下は世にも知られず、蔭に働く人々の勞をいたはらせられる思召で、その後しばらくたつてから、全國燈臺守に對し、金五千圓を賜はつた。

沼津御用邸に御滞在中、静岡縣駿東郡藤岡村に佛人レデーといふ人の經營する後生病院に行啓あそばされたことがある。そこは聞えたばかりでも眉をひそめられる癩病患者を收容して療養させる所であつたが、陛下にはそこを隈なく御巡視あそばされ、後に經營費の一部として多額の御下賜金を下された。静岡縣知事からこの御沙汰を拜した時、レデー氏は御用邸の方を伏し拜んで感泣したといふことである。古への光明



皇后の御事さへ思ひ浮べられてまことにかしこききはみである。  
大正十二年九月一日の大震災當時の陛下の御心づかひはまた格別



本日赤十字社總會に御臨幸の皇太后陛下下

に盡力せよとのありがたなお言葉を賜はつたのであつた。

であらせられた。そのころ陛下は先帝陛下  
下ご御一所に日光御用邸に御滞在中であ  
らせられたが、その時の内務大臣後藤新平  
子が伺候して、親しく震災の模様をはじめ  
罹災者の状況をくはしく申上げるご、陛下  
下には熱心にお聴きとりなされた後、自分  
達も當分食事は一汁一菜の事とするから、  
國民一同も節約を旨とし、官吏は萬事に手  
落なく、ごもぐに罹災民を救護するやう

ついで陛下には九月二十九日なかば焼野原となつた帝都にお還りあ  
そばされたが、バラック建の上野假驛に御到着あそばされるご、たち  
上野公園自治會館内の罹災者を御慰問あそばされ、續いて宮内省巡回病  
院、和泉橋の三井慈善病院等に行啓あそばされ、それぐ罹災者を御慰問  
あそばされた。その翌日からはまた順々に各所の病院へ行啓あそばさ  
れ、罹災者を御慰問あそばされ、お厚いお言葉さへ賜はるごがあつた。  
神田駿河臺の濟生會臨時産院に行啓あそばされた時などは、ありがたき  
陛下の思召で、をりから生れた女の子に「幸子」と命名されたごもあつた。  
また十一月三日には、もつこもみじめな目にあつた本所被服廠跡を御  
巡視あそばされ、かしこくも御親ら納骨堂に納められた靈をお吊ひあそ  
ばされた。地下三萬八千の靈も、さだめし感泣したごであらうと思は  
れる。





皇太后陛下横濱震災御覽

その折の御歌

大みたから守りの神のいかなれば

一時にても見すてましけむ

おほごのをたたく霰の音にしも

かり屋の夜の寒さをぞ思ふ

先帝陛下の御看護

陛下は 今上天皇陛下をはじめまつり

秩父宮高松宮澄宮三殿下の御母君として

各親王方の御養育に御教育に御心を碎か

せられた事は御察し申しあげるさへおそ

れ多いきはみであるが、聖上陛下の御事は申すもおるか秩父宮高松宮

澄宮三殿下にも並すぐれて御壯健に御成長あそばされ御聰明御惻愍

でいらせられると申すも、ひとへに陛下長年の御心づくしのかひある  
事ごありがたくもたのもしく仰がれる。

わけても長い間御不例にわたらせられた先帝陛下の長の御看護につ  
いては、いかに御心を勞せられたかはお察し申しあげるさへ涙ぐまれる  
次第である。先帝陛下の御不例重らせられぬ間は、日光の御避暑に葉山  
の御避暑に、日夜お附添あそばされて、何くれとなく御看護申しあげお慰  
め申し、西に東に神社を御巡拜あそばされては、御不例の一日も早く御快  
癒あらせらるゝやう祈願をこめさせられたが、先帝陛下が久しい間の御  
不例にもかゝはらせられず、御四十八の御年まで御在世ましましたのは、  
先帝陛下の御威靈によるは申すまでもなき事ながら、一には陛下の御看  
護の御心づくしのかひご國民のひとしくありがたくかしこく仰ぎまつ  
ることごもである。



これほどの陛下の御心づくしのかひもなく、大正十五年八月十日葉山に御避暑あそばされてより、先帝陛下の御不例御氣先次第におよろしからず、十月末より十一月にかけて次第に重らせられ、十二月に入つてよりは氣管枝肺炎の御病状さへ拜しまつり、御惱日一日と重らせられ、十七八日頃になつては御病状御急變御重態に陥らせられた。

御痛はしくも皇太后陛下には、その間寸時の御休息もあそばされず、三度の御食事もほんの御箸をお取りになるばかり、朝早くより夜ふけるまで御病床近くお附添あそばされ、御心のあらんかぎりをつくして御看護申しあげ、わけても御急變後はおんみづから、先帝陛下の御胸御額の御汗をいくたびも純白のガーゼに水を浸してお冷やし遊ばされ、絶えず先帝陛下の御顔をおのぞきあそばされて、御眉一つの御動きにも御心を碎きあそばされたこと申すことで承るさへ感極つて涙ぐまれる御事ごもである。

先帝陛下崩御神さりまして、永久に多摩の御陵に神鎮まります事なつてからは、陛下は宮中権殿の日毎のお勤め怠らせられず、御祭日には親しく多摩御陵に御参拜あらせられて、いませし日の先帝陛下を御偲びあらせらるゝご承るもまごごにかしこききはみである。



### 秩父宮殿下の御事ども

#### 御経歴

秩父宮雍仁親王殿下は、先帝陛下第二の皇子にましまし、明治三十五年六月廿五日、青山東宮御所内に御誕生、初めの御稱號を淳宮と申されたが、大正十一年六月廿五日御成年と同時に秩父宮の御稱號を賜つた。明治四十二年四月十二日學習院に御入學あそばされ、大正四年四月めでたく初等科御卒業あそばされ、進んで中等科におはいりなされたが、同六年四月陸軍中央幼年學校に御入學あそばされ、同校卒業後更に陸軍士官學校に御入學、同十一年九月御卒業あそばされ、見習士官として東京麻布歩兵第三聯隊第六中隊に御勤務あそばされた。同十一月陸軍歩兵少尉に御任官あそばされ、同時に大勳位に叙し、菊花大綬章を授けられた。

#### 勇壯な御行動

殿下の御勇壯にまします事は、御幼時より、日常の御起居に現はれて居つたと承はるが、中にも大正十二年の陸軍大演習における士官學校生徒隊一小隊長としての御健闘ぶりは、實に目ざましいものであつたと申すことである。

その時の大演習には、士官學校生徒も東軍の一部隊として参加する事になつてゐたが、をりから十二月十九日の霜こほる朝、東軍の戦況が不利で、帝都が危いから、陸軍士官學校生徒も直ちに参加せよといふ東軍軍司令官の演習命令は來た。生徒隊は直ちに市ヶ谷の校舎を出て、駒澤練兵場に馳せ向つたが、この時殿下は、歩兵大隊第一中隊の小隊長として先頭に立たれ、勇ましく進發された。

生徒隊は一時駒澤練兵場附近に集合戦機を待つてゐると、午後零時四

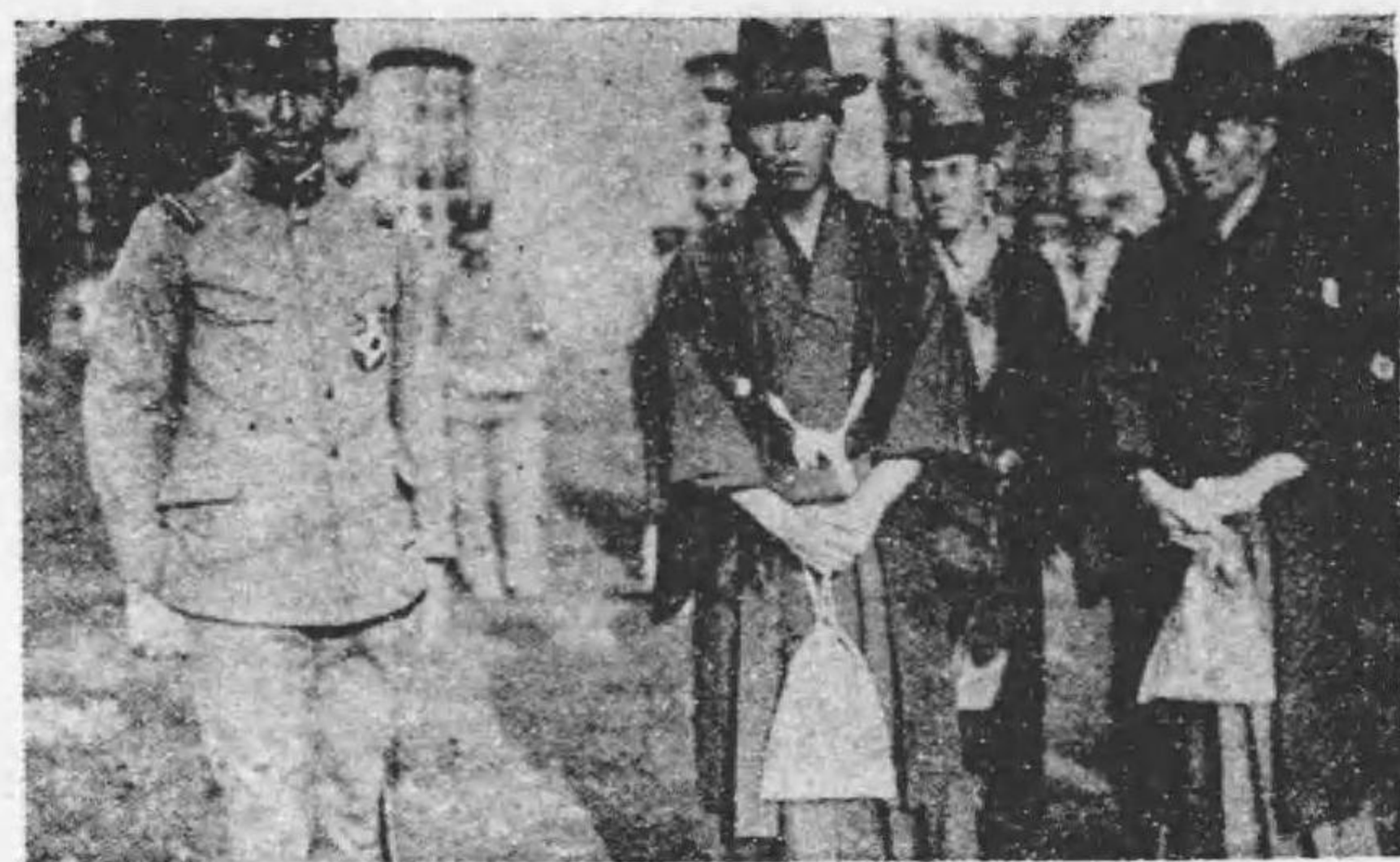


十分いよ／＼中仙道金子村附近に陣地を占領する目的をもつて、前進すべき命令が出た。生徒隊はもう／＼たる砂ほこりの道を急行軍で前進したが、殿下もその中に交り、汗と埃にまみれて他の生徒とともに進軍され、陣地を占領する際には、小隊長として部下と共に塹壕を築いたり、斤候に出たりなされて、御活動なされたが、なほ引續いての多摩川の激戦の際には、最先頭に立つて急流に飛び込まれ、膝を没する寒水を物ともなされず、全身濡れ鼠のやうになつて前進され、敵陣目がけて突撃あそばされた。その御勇壯御活潑な御健闘ぶりには、誰とて感嘆しまつらぬ者はなかつたと申すことである。

### 三聯隊御勤務

麻布三聯隊に御勤務中は、青山の御殿より毎日御徒歩でお通ひあそばされ、一般將校と同じ部屋で、同じ机椅子をお用ひになつて、ひたすら軍事

にいそしみなされた。



(る送見を兵隊除期滿) 宮父秩のてしと校將の隊聯三兵歩

わけても新兵係として初年兵の教育に當らせられた時は、非常な御熱心で御自身に模範をお示しになりながら、痒いところへ手の届くやうに親切に御教育あそばされ、御快活にお導きあそばされた。新兵一同もその御心に感激して、教練に勵んだので、その中隊の新兵は聯隊中でも優等な成績を挙げたと申すことである。

打解けあそばさる御性分があらせられて、部下の兵士を友達のやうにお

殿下は、小隊長として劍を抜いて小隊を指揮なさる凛々しい御氣性の一面には、非常に



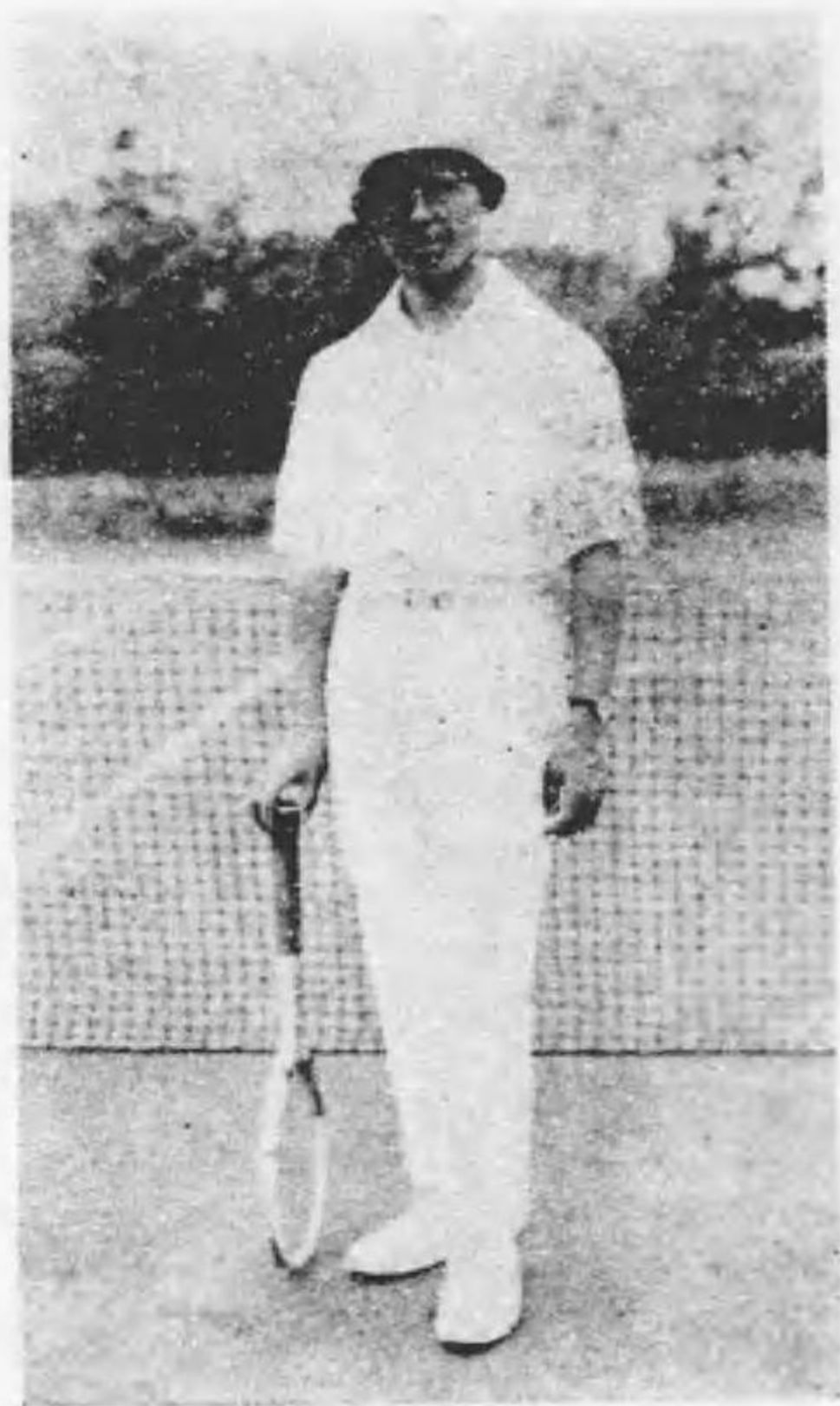
扱ひなされ、何かとお目をおかけなされたので、そのころ親しく殿下の御教育を受けた兵士どもは今日までもその御徳をお慕ひ申して居るといふことである。

### 御運動御競技

殿下は、また運動競技に御熱心で、庭球、スキー、登山など、いづれも人並以上にあそばされるので、世間ではスポーツの宮様と申しあげてをるほどである。

中にもすぐれさせてゐるのは庭球で、先年士官學校々庭に行はれた各中隊對抗競技に第一中隊の選手として出場され、第四中隊との競技に美事勝利を得られた事がある。登山はまた殿下の御得意となさることで、先年は御自身登山袋を負つて日本アルプスに御登山あそばされ、御渡歐あそばされた際には、五月七月の兩度に歐洲アルプス御登山の壯舉を敢

行あそばされ、数々の高山にお登りになり、最後に一萬四千フキートのフインステルラールホルンの頂上を極めさせられ、さすがの歐洲登山家をして舌を捲かしめなされた。



宮父秩ふ給せた立にトーコの所御山青

### 御外遊

大正十四年には英國御留學の御目的にて御渡歐あそばされる事となり、五月廿四日軍艦出雲に御乗艦横濱を御出發あそばされ、七月六日佛國マルセ

イユ御着七日パリを経て御無事英國ロンドンにお着きあそばされた。英國にては男爵林權助氏御輔導の大任を承つたのであるが、殿下はまづロンドン郊外にあるローレンス・ドラモンド卿の邸内に御寄寓あそ



ばされ、同家の家庭的な御生活に親まれ、オックスフォード大學御入學の御準備のかたはら英國をはじめ、佛國や瑞西までもお渡りになつて各地



秩父宮殿下のアルプス登山

して一般學生と同様な學生生活をおそばされ、所定の學課を御勉學おそばさるかたはら、學生生活の社交的方面をも御研究おそばされ、運動部に

御巡遊御見學を遂げさせられた。翌十五年五月には歐洲アルプスの御登山を御決行おそばされ、十月にはドラモンド卿の邸を辭していよくオックスフォード大學に御入學おそばされた。それより殿下はモードリン・カレツヂの一學徒こ

もおはいりになつて、漕艇や乗馬なども他の學生ともぐいそ熱心に

あそばされた。

### にはかの御歸朝

殿下は御成業をお樂みに専心修業を續けていらせられたが、御父先帝陛下御惱重らせられしよしの電報をお受けなされ、十五年十二月二十二日にはかに御歸朝の途に上らせられ、米國をお通りになつて無事御歸朝おそばされたが、この時はすでに先帝陛下崩御神さりました後で、東京驛より直ちに御參内殯宮に奉安せる先帝陛下の靈柩を拜せられたが、御拜後默禱を續けさせられし時の殿下の御心中、お察



英國オックスフォード大學に御入學

し申しあぐるさへ涙ぐまれる御事ごもである。

にはかの御歸朝



その後、殿下には先帝陛下の大喪儀に 陛下御名代として寒夜を徹して多摩御陵までのお伴をあそばされ、今は 天皇陛下、皇太后陛下の御心を酌みあそばされて、再度御渡歐の御念もお断ちあそばされ、元の三聯隊附として御勤務あそばさるかたは、陸軍大學御入學の御準備に他念あらせられぬよし承るも、たのもしくもかしこききはみである。

### 高松宮殿下の御事ども

#### 御幼時、御修學

高松宮宣仁親王殿下は、先帝陛下第三の皇子にましまして、明治三十八年一月三日御生誕あらせられ、初め御稱號を光宮と申されたが、大正二年に高松宮と改めさせられた。

御幼少の時は、青山御所内にある皇子御殿で、御兄君秩父宮殿下と御一

所に御起居あそばされ、明治四十四年四月學習院初等科に御入學あそばされ、初等科御卒業後、中等科に進ませられ、大正九年五月學習院中等科三年御修業後、江田島にある海軍兵學校に御入學あそばされた。



高松宮殿下

御在學中の御生活は至つて簡易で、御宿舍こそ他の生徒と違つて居たが、その他は少しも一般生徒と異なるところはなく、熱心に修業あそばされた。

殿下はお言葉の少ない方でいらせられるが、御氣象は御兄君同様を、しくいらせられ、特に水泳に長じさせられ、大抵の荒波は美事に乗りあそばさるご申すことである。殿下は寫眞撮影に興味をもたせられ、博物採集などにも深く興味を持たせられるご申すことである。



御卒業、御任官

殿下には、大正十三年七月めでたく海軍兵學校を御卒業あそばされたので、同年九月少尉候補生として軍艦淺間に御搭乘遠洋航海の途につか  
せられるために横須賀御碇泊中であつたところ、赤痢にかゝらせられ、こ  
の遠洋航海の途にはつかせられなかつた。御病氣御全快後は少尉候補  
生として横須賀軍港に御勤務あそばされた。

殿下には大正十四年一月三日をもつて、満二十歳に達せられたので、同  
月御成年式を擧げさせられ、同時に高松宮としての御一家を御創立あそ  
ばされた。殿下は勅令により妃殿下の薨去ごとも、断絶した有栖川宮  
家の祭祀を營ませられるよし承る。

同年十二月には、いよゝ海軍少尉に任せられ、同時に大勳位菊花大授  
章を授けられた。御任官と同時に軍艦扶桑に御乗組あそばされ、十五年

四月には第一艦隊と共に南支那海へ御航海あそばされ、後には軍艦小鷹  
に御乗組になり、水雷係として一般將校と同様な御勤務に服せられた。  
これにて艦上勤務の一斑を終へさせられたので、これよりは専門的の御  
研究をあそばさるために、横須賀海軍砲術學校へ御入学あそばされた。

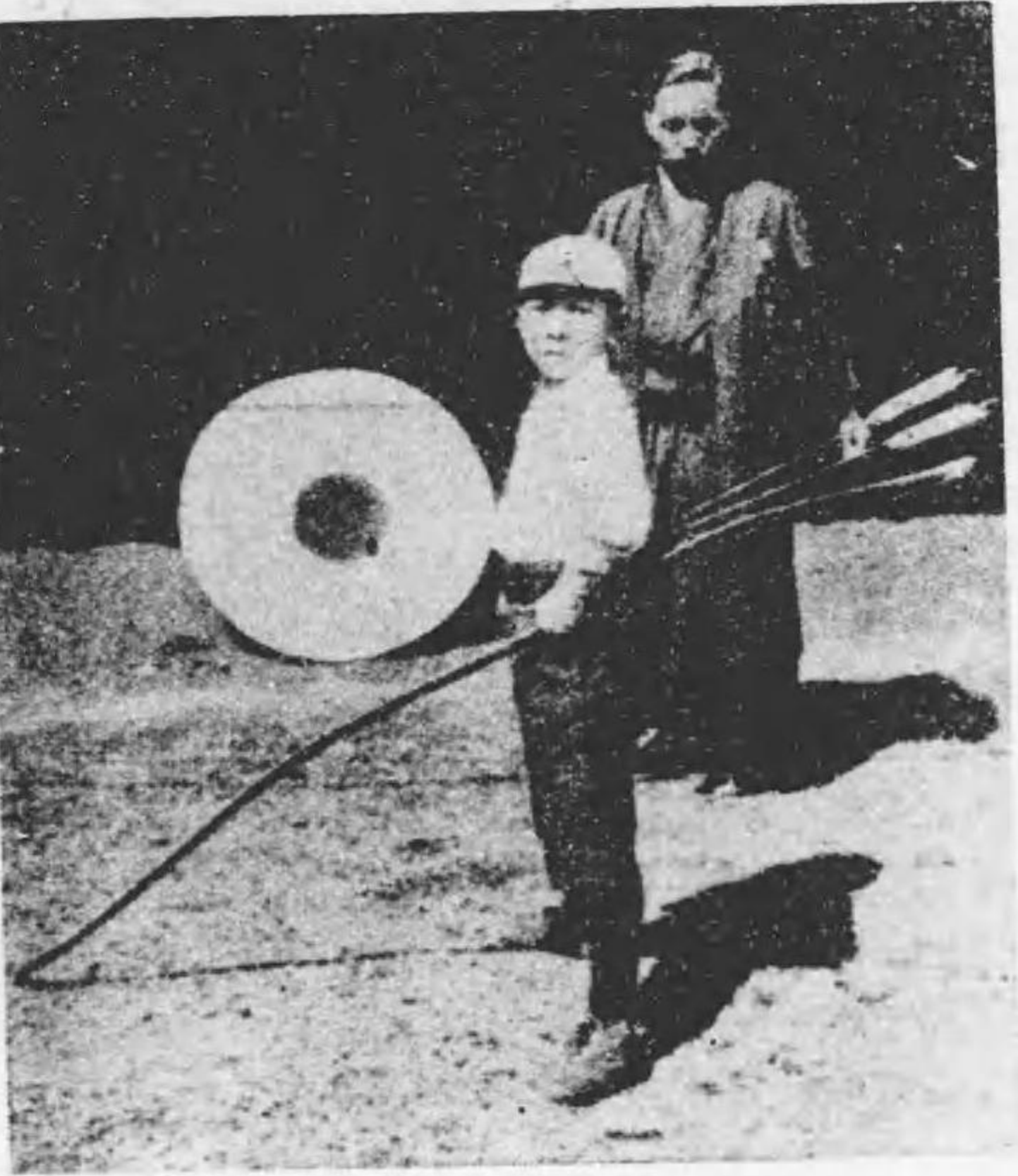
澄宮殿下の御事ども

澄宮崇仁親王殿下は、先帝陛下第四の皇子にましまし、大正四年十二月  
二日御生誕あそばされ、青山御所内で御成長あそばされた。大正十一年  
四月學習院初等科に御入学、青山御所内の皇子御殿から御通學あそばさ  
れてをる。

殿下は、いろゝの方面に興味をもたせられるが、特に御幼少よりすぐ  
れさせられたのは御歌である。殿下がまだ御幼少のをり、御母皇太后



陛下が古人の和歌數十首を御選擇になり、片假名にて御自身に認めさせられて殿下に贈りなされたことがあるが、殿下がそれを口ずさみなされて



澄宮殿下の弓

ていらせられるうちに、歌の詠みやうを御會得あそばされ、御見聞あそばされた御感じをそのまゝ、口語にお詠みなされたのがいづれも美事な童謡となつてをるので、世の中で一時童謡の宮様と申しあげたほどである。

學習院に御入學あそばされてからは、歌はあまりお詠みなされず、専心御修學なされるかたは、ら、スポーツに御興味深くいらせられ、早くから宮家

職員と共に「澄宮チーム」を組織あそばされてをるが、宮内省野球團や沼津の青年團と試合をあそばされて、美事勝利を得させられた。御水泳もお得意で、近頃はまたしきりと弓の御稽古をあそばされてをる。

十五年の春には、大和路から京都、奈良、桃山、伊勢へかけても旅行御見學あそばされ、十二月二日を以つて第十二回御誕辰を迎へさせられた。



謹告

卷末に「踐祚後朝見ノ御儀勅語謹解」を附す豫定でありましたが、需要の都合上、一先これだけを急ぎ刊行し、同謹解は四月再版の際附することにいたしました。右あしからず御諒承を請ふ。

昭和二年三月十五日印刷  
昭和二年三月十八日發行

定價金參拾錢

編纂者 昭和皇道會

代表者 細川法音

東京府下三河島町參千參百九十三番地

細川法音

發行者

東京市京橋區新榮町五丁目七番地

村田豊吉

印刷者

東京市京橋區新榮町五丁目七番地

大倉印刷所

印刷所

不許  
複製

發賣元

東京市日本橋區箔屋町一六  
振替東京七一七一番

文原堂書店



308  
263





終

